

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	大瀨 磨彦	生徒指導主事	陸田 良介
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『あいさつ運動』『いじめ撲滅集会』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	2	自己肯定感の向上	3

取組のねらい

『あいさつ運動』…あいさつの意義を理解させ、主体的にあいさつをしようとする心を育成する。児童相互による肯定的評価の機会を拡大し、自己有用感を育む機会とする。  
『いじめ撲滅集会』…児童会の児童主体となる活動を推進とともに、いじめ問題について全校児童で考える機会とする。

取組の具体的内容

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード つながり』
<p>『あいさつ運動』</p> <p>毎週月・水・金曜日の登校後、児童会執行部児童が児童玄関前に立ち登校してくる児童に挨拶をする。</p> <p>また、あいさつ名人に選出されたことのある高学年児童に、あいさつ運動の参加を呼びかけ、自主的な参加を促す。何度も参加した児童には児童会から感謝状を贈呈する。</p> <p>※三次小あいさつ名人</p> <p>校内におけるあいさつがよくできる児童を選出し、全校朝会や放送などを通して月ごとに表彰し、認定証を贈呈する。(昨年度からの取組)</p>   <p>『いじめ撲滅集会』</p> <p>児童会行事の一つとして、全校参加のいじめ撲滅集会を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ撲滅宣言の周知</li> <li>全学級から学級自慢やいじめ撲滅のための具体的取組についての発表</li> <li>児童会執行部児童による寸劇。</li> </ul> 	<p>「児童の相互評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から気持ちの良いあいさつができる児童を児童会執行部が中心となって選出し、認定証を贈呈する。 ⇒自己肯定感の向上 ⇒コミュニケーション能力の向上</li> </ul> <p>「自主的な活動」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動の参加を自主的な活動にすることで、主体性を育む場とする。 ⇒主体性・積極性の育成</li> </ul> <p>「全体共有・意識統一」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全校でいじめという共通のテーマについて考え、発表を通して、全体共有を図る。また、いじめを絶対に許さないという意識統一を図り、いじめのないよりよい人間関係の育成を図る。 ⇒コミュニケーション能力の向上</li> </ul>

取組の成果と課題

『あいさつ運動』

- 児童の意識調査（令和3年度2学期・令和4年度2学期）を比較すると、「自分からあいさつをしている」と肯定的にとらえている児童は、75.7%⇒82.2%と増加した。あいさつに特化した取組を継続していくことで、全体的にあいさつをする意識が高まったと考えられる。
- 週3回のあいさつ運動を実施することで、必然的にあいさつをする回数も増加し、習慣化につながったと考えられる。

『いじめ撲滅集会』

- 学級の良さを見つめ、いじめ問題に対する意識を高める良い機会となった。また、全体共有を行う中で、関わりの少ない他の学級の良さを知ることができた。
- 3学期の実施となり、本取組を意識した学校生活を送る時間が短くなってしまった。来年度に実施する際は、早期に実施をし、取組の検証を行いたい。また、リモート参加の学級も含めての実施であったため、双方向でのやり取りを円滑に行うことの難しさがあった。